

留学前は、クウェートのイメージといえば、産油国で金持ちの国、砂漠、イスラム、湾岸戦争くらいでした。

砂漠については、行く前に想像していたきれいな砂浜のようなものではなく、実際には大小の砂が混在する砂丘のような感じでした。空気中には常に細かい砂が漂い、窓を閉めていても朝起きるとテーブルの上にはうっすらと埃のように砂がたまっていることもあります。たまに砂嵐が来て、霧のように砂で前が見えなくなり、呼吸もしづらいということがありました。ただ、かなり乾燥しているので、洗濯物の乾きはすさまじく、そこはだいぶ助かりました。

石油についても表面的には予想通りでした。石油のおかげで国民にかかる税金はなく、学費も無償、国民は全員公務員で給料も高く安定、住宅購入費補助や子ども手当があるなど、あらゆる支援が国からもらえます。知り合った現地の高校教師曰く、クウェート人としてクウェートに生まれれば貧乏になることは非常に難しいと。ただ、これはあくまで純クウェート人にのみ与えられる待遇です。クウェートの人口の半分以上は外国人、海外からの出稼ぎ労働者で、純クウェート人ではありません。例えばクウェート人が公務員としてオフィスで働いていれば、その建物の警備員がエジプト人、運転手がインド人、清掃員がフィリピン人というように階層ができています。クウェート人の中では家で子育ての時期などにフィリピン人やインド人のお手伝いさんを雇うことが多いですが、その人たちの給料は月 3 万円くらいです。現地ではクウェート人より彼らのほうが多く見かけたかもしれませぬ。国を土台の部分で支えているのはまずしい国からの外国人であるということを知りました。

クウェートは厳密なイスラム教の国です。基本的に国にお酒と豚肉が存在しません。実際にお酒も豚肉も一度もみることはありませんでした。ちなみにお酒がない中でもみんなジュースで乾杯しています。また、そこら中に礼拝所であるモスクがあります。一日 5 回のお祈りの時間に合わせてそのモスクからアザーンというチャイムが鳴りますが、それが夜 3 時にもあるため、モスクに近いと毎日起こされます。

クウェートで最も驚かされたことの一つは、男女の壁です。クウェートでは、街のカフェでも大学内でも、未婚の男女が一緒にいるところを見つけるのは非常に難しいことです。社会的にも建物の構造的にも、とにかく男女は分けられています。

今回の留学では、クウェートについてだけでなく、日本についても客観的に学べたことが多かった気がします。留学以前、生きづらい点が多い日本をあまり好きにはなれませんでした。しかし、日本以外の国に長く住んだことで、日本では当たり前すぎて気づけなかった良さが見えてきました。ちなみに、今回の留学では 20 か国以上の国の人とともに学びましたが、クウェート人も含めて日本のイメージはかなり良いです。大きな要因の一つは、日本人は概して根が真面目、勤勉だということです。実際に様々な国の人とともに学ぶ中でその傾向ははっきり感じました。それともう一つは、アニメです。本当に人気でした。クウェートで日本語を学んでいる学生の動機もほとんどが日本のアニメです。アラビア語の前に日本のアニメを勉強しておいたほうがいいのかもかもしれません。

ところで、アラビア語の勉強については、やる気さえあればこの留学制度は非常によいものだと思います。授業は平日ほぼ毎日ありますが、最終的な成績やクラスのレベルをそこまで気にしなければ大して難しいことはありません。しかも一日 2 時間だけですので、実際にはそれ以外の時間がむしろメインの勉強時間です。つまり、毎日 1 日中好きに勉強していられます。ちなみに、今回学んだ最大のコツは、留学中はできるだけ早い時期から、周りの人とは常にアラビア語のみで会話をすることです。特に日本人同士ではそれを意識してほしいと思います。初めにその提案をしてくれたルームメイトに感謝です。

クウェートに長く住みたいかと聞かれれば答えはいいえですが、今回の留学で本当に多くの重要なことを学ぶことができました。ありがとうございました。